

「不登校児童生徒の学びを考える会」の実施について

1 概要

不登校児童生徒への支援について、これまでぐんま MANABIBA ネットワークで行ってきた関係者間での情報交換会を拡充し、小中高等学校、市町村教育委員会の教育支援センター、フリースクールに加え、今回は新たに保護者も交えて、「不登校児童生徒の学びを考える会」を実施した。参集とオンラインのハイブリッド形式で行い、基調提案をもとに3つの分科会に分かれた参加者同士で、熱心な情報提供や意見交換が行われた。

2 実施日・会場 令和6年7月30日(火) 総合教育センター(伊勢崎市今泉町)

3 参加者 162名 (保護者31名を含む)

4 内容

(1) 基調提案

○不登校児童生徒の支援に長く携わる3名から支援の在り方に係る基調提案を行った。

- ・「不登校状態の子に出会った時考えること」 みどりクリニック医師 鈴木 基司
- ・「不登校について考える」

カウンセリング&コミュニケーション・ミュー主催 山本 泉

- ・「教育支援センターの実情を考える」

公認心理士・自立支援アドバイザー 大野 勝恵

(2) 分科会

○第1分科会「保護者のつながり部会」(1グループ)

- ・不登校児童生徒を抱える保護者を対象とし、抱える悩みや不安を語り合ったり、学校や関係機関との具体的な連携の仕方について話し合ったりした。また、併せて「つなぐん」の説明や「つなサポ」の体験会を行い、継続した支援・協力体制を築くことができた。

○第2分科会「群馬県の支援体制について考える部会」(2グループ)

- ・教育行政関係者や教育支援センター、フリースクール等の代表者を対象とし、各機関での課題をもとに他機関との連携の必要性について情報交換を行った。「ぐんま MANABIBA ネットワーク」や「つなサポ」を核としたネットワークづくりについて意見交換を行った。

○第3分科会「指導・支援について考える部会」(8グループ)

- ・学校関係者や、教育支援センター・フリースクール等の指導員・相談員を対象とし、不登校児童生徒への具体的な支援について協議した。地域別の小分科会で行うことで、今後の具体的な連携について意見交換を行った。

5 成果と課題

○多くの保護者に参加していただいたことで、不登校に悩む児童生徒の学びについて多面的な理解が深まるとともに、より関係機関が具体的に連携していく必要を実感することができた。

○医療、フリースクール、自立支援アドバイザーの3名の専門家からの基調提案を受けて、話合いのテーマを分科会で精選して設定し、少人数による長時間の協議を行ったことで、9割以上の参加者が「大変、有意義であった」と回答し、満足感のある研修会となった。

◇今後、関係者がより参加しやすい日時や開催方法を見直していく必要がある。